

3.1.1 以前の原発関係者の不審死 1



● 2011年2月14日頃 もんじゅ 燃料環境課長が自殺 (毎日新聞)

高速増殖原型炉「もんじゅ」(福井県敦賀市)で昨年8月、原子炉容器内に誤って落とした燃料の炉内中継装置が破損し抜けなくなったトラブルで、装置を現場で担当する燃料環境課長(57)が自殺していたことが分かった。複数の関係者によると、課長は休日の今月13日、家族に「ちょっと出てくる」と伝えて外出したまま戻らなかったため、県警敦賀署に捜索願が出されていた。数日後、同市内の山中で遺体が発見された。日本原子力研究開発機構の関係者は「自殺の理由はよく分からない」と話した。

『なぜ「自殺」だとわかるのか?』

装置落下事故の復旧作業を担当

高速増殖原型炉「もんじゅ」の燃料環境課長が敦賀市内の山中で死亡

<http://civilesociety.jugem.jp/?eid=6958>



● 2010年6月9日 日本原燃課長が転落死か 青森、核燃料再処理工場の管理職

9日午前7時20分ごろ、青森県六ヶ所村の日本原燃の再処理事業所構内で、事務棟の脇に40代の男性課長が倒れているのを清掃員が発見、119番した。課長は病院に運ばれたが、死亡が確認された。

野辺地署が死因などを調べている。消防によると、原燃から「転落したと思われる」と通報があったという。

原燃によると、課長は使用済み核燃料再処理工場の試運転にかかわる部門の管理職で、始業前の時間だった。

再処理工場は2006年3月に試運転を開始したが、放射性廃液漏れなどのトラブルが相次ぎ、終了時期を8回延期。ことし10月としている現行の目標も、熔融炉に落下したれんがの回収に手間取るなど工程が遅れ、達成が厳しい状況となっている。

(共同通信)

<http://www.47news.jp/CN/201006/CN2010060901000302.html>



● 2010年4月15日 中国電力部長が自殺か 島根原発点検漏れ問題を担当

松江市の島根原発1、2号機で発覚した点検漏れ問題で、中国電力の緊急対策本部で原因調査に当たっていた同社電源事業本部の男性部長が13日午前、松江市のホテル駐車場で倒れているのが見つかり、死亡していたことが15日、松江署などへの取材で分かった。

松江署は現場の状況から、部長がホテルの部屋から飛び降り自殺を図ったとみて調べている。同署や中国電力によると、部長は12日夜はこのホテルに宿泊していた。

石井紘基議員暗殺事件 ウィキペディア

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9F%B3%E4%BA%95%E7%B4%98%E5%9F%BA%E5%88%BA%E6%AE%BA%E4%BA%8B%E4%BB%B6>



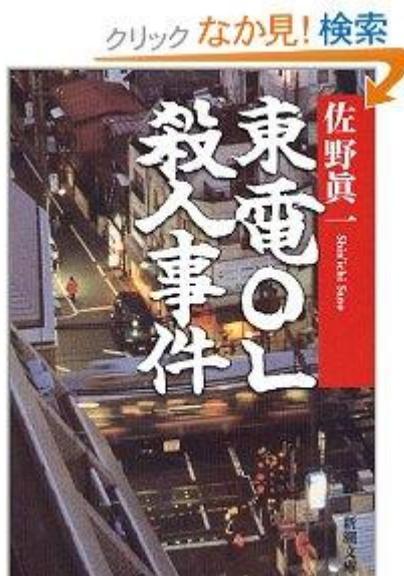
● 1997年3月19日 東電OL殺人事件

事件時は東電企画部経済調査室副長だった

渡邊泰子さんは、渡邊達雄の長女として、1957（昭和32）年6月7日に生まれ、慶応義塾女子高等学校、慶応義塾大学経済学部を卒業後、他界した父の跡を継ぐ形で1980年（昭和55）4月に東京電力に就職しています。



東電本社では企画部調査課に所属し、1993（平成5）年には 企画部経済調査室副長に昇進しております。同室は電力事業に対する経済の影響を研究する部署であり、泰子さんは、そのなかで、国の財政や税制及びその運用等が 電気事業に与える影響をテーマにした研究を行い、月一、二本の報告書を作成していたそうで、そのレポートは高い評価を得ていたということです。



「原発の危険性を指摘」する報告書を作成していた

レポートの内容は、「原発の危険性を指摘」する報告書も あったようで、工務部副部長だった父親の渡邊達雄さんの 遺志を受け継いだ内容の報告書などを作成したようです。



●1995年12月8日 動燃職員強制死事件



高速増殖炉「もんじゅ」のナトリウム漏れ事故が起きたとき、情報隠蔽問題で内部調査にあっていた動燃職員の西村成生さんが、翌年1月12日に行われた記者会見の数時間後、ホテルの駐車場で遺体となって発見された。

(略)

◆動燃職員強制死事件

1995年12月8日、動燃（現在の日本原子力開発機構）の高速増殖炉「もんじゅ」（福井県敦賀市）で、原子炉の熱を取り出す2次冷却系配管から冷却材のナトリウムが漏れる事故が起こった。動燃は、事故直後の午前2時に事故現場を撮影したビデオ（「2時ビデオ」）を公表せず、それから14時間後に撮影したビデオを最初のビデオ（「4時ビデオ」）として公表した。「4時ビデオ」には編集が加えられており、事故の重大さを感じさせられる部分がカットされていた。

「2時ビデオ」は事故直後に本社に届けられ、本社職員も見ていたことがわかり、12月25日、大石理事長にそのことが報告された。大石理事長はただちに発表することを指示せず、翌年1月11日、動燃は科学技術庁（以下、科技庁）に相談した。12日、科技庁

がそのことを記者に漏らし、急遽、動燃が記者会見を行った。理事長が「2時ビデオ」が本社にあることを最初に聞いたのは12月25日ではなく1月11日と答えたことから、西村さんはこの「嘘」に従い「1月10日」と言わざるを得なくなった。

西村さんの遺体がホテルの駐車場で発見されたのは、それから数時間後の13日未明だった。

◆元厚生次官宅・連続襲撃事件と動燃総務部次長の怪死

<http://members.jcom.home.ne.jp/u33/i%20think%20081124koseijikan%20donen.htm>

旧厚生省の2人の元官僚トップ宅で18日、相次いで惨劇が起きた。さいたま市で元事務次官、山口剛彦さん（66）夫妻の命が奪われ、その発見から約8時間後、約14キロ離れた東京都中野区の元次官、吉原健二さん（76）宅で、妻靖子さん（72）が刺され重傷を負った。2人の元エリートは現役時代、ともに年金制度を担っていた。「これは年金テロなのか」。卑劣な凶行に厚生労働省は、重苦しい雰囲気にも包まれた。

毎日新聞（2008年11月18日）

東京・桜田門の警視庁に22日午後9時20分、車で男が乗り付け、入り口にいた警察官に「次官を殺してきた」と話した。男は刃物数本をもっていた。男の身柄を麹町署に移し、元厚生事務次官宅連続襲撃事件との関連について、慎重に調べている。車は川越ナンバーのレンタカーだった。男が犯人にしか知り得ない事実を知っているかなどについて調べる。警視庁は刑事部の幹部などが同署に集まっている。

朝日新聞（2008年11月22日）

1995年に高速増殖炉もんじゅが冷却用ナトリウム漏れという大事故を起こした。この騒動の最中、運営側の動燃の説明員が「自殺」。いきすぎた報道が死をもたらしたと非難され、以後、事故の報道は下火になっていった。このできすぎた死は、本当に自殺だったのか——高田欽一氏（ジャーナリスト）

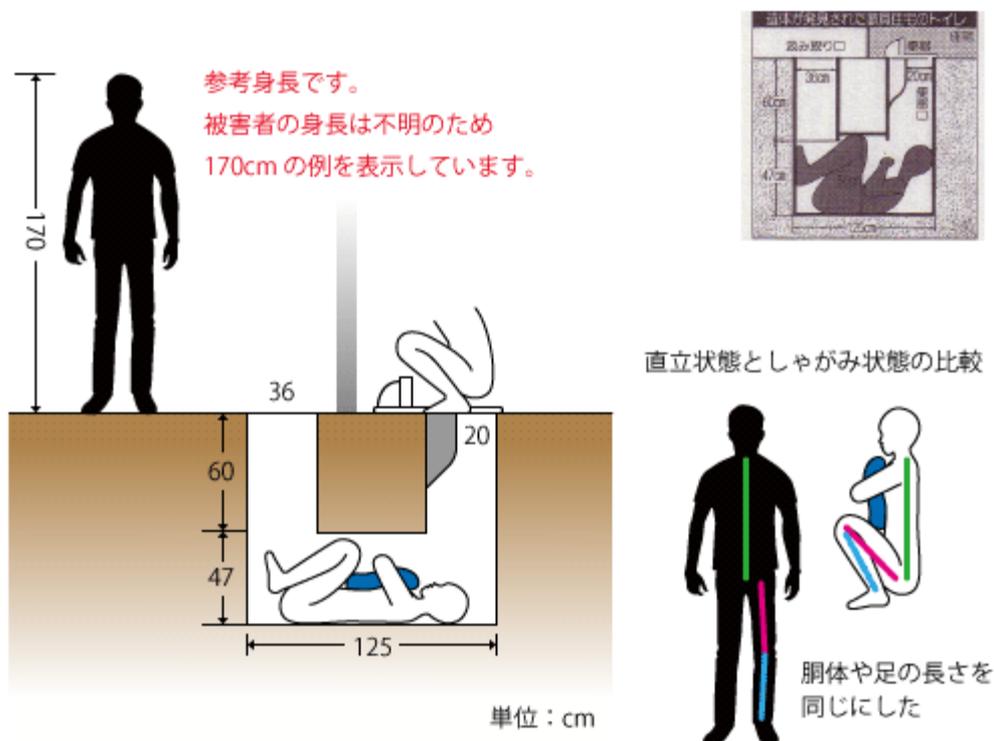
◆もんじゅ 燃料環境課長が自殺 （毎日新聞）

◆関連記事 市民社会フォーラム

<http://civilesociety.jugem.jp/?eid=6958>



● 1989年2月28日 福島県田村郡都路村の青年会に所属する Sさん女性教員トイレの便槽で怪死



<http://www.asyura2.com/12/genpatu20/msg/549.html>

村の青年会に所属する男性（26歳）が小学校に勤める女性教員（23歳）の教員住宅の便槽内にて狭い場所で圧迫され凍死していた。死亡していた男性は原発保守を行う会社で営業主任。福島第二原発を担当

◆事件は謎のままだが、いくつか確実なことはある。

寒い2月に半裸で、のぞきのために糞尿だらけになって便槽にもぐる人間はいない。便槽の入口直径はたった36センチ。死ぬ覚悟がないと入り込めない。間違いなくこれは他殺だ。

また、のぞき犯に仕立てた点からして見せしめであることも確実だ。事故死に見せかけるのなら他にいくらでも方法はある。わざわざ手間をかけて遺体を狭い便槽に入れたのは、逆らうとこうなるぞ、という強いメッセージを伝えるためである。

そして地元警察も犯人とグルであることも明白だ。検死すれば他殺はすぐ判明する。それを握りつぶしたのだ。

なぜS氏は殺されたのか？

村長選の違反の証拠を握っていて告発しようとしたか、3号機事故がらみか。村長選が直接の原因としても、村人の多くが原発関連の仕事をしている地域であるから、村長選に原発マネーが飛び交うのは当然であり、福島原発と無縁な事件だとは思えない。

警察を抱き込めるような大きな組織が事件の背後に存在したことは間違いない。

もんじゅでもそうだったが、重大事故が起きると必ず関係者が自殺、変死する。自殺に見せかけて殺された可能性も大きい。

このS氏をはじめ多くの人が闇に葬られてきた。さぞ無念であろう。

今回の破局的な事故で、この事件の村々も何百年も住めないほど汚染されてしまった。
それを考えると、彼らの怨念を感じざるを得ないのである。

<http://www.asyura2.com/12/genpatu20/msg/549.html>

◆ 2011年9月8日 憂いの果てに

原子力業界の不思議な事件・福島便槽内変死事件

<http://hatajinan.blog61.fc2.com/blog-entry-315.html>



事件現場となった女性教師宅の便槽は、今現在も被害者の遺族が保管している。